

来週の市場とレート予想

	7/3 (月)	7/4 (火)	7/5 (水)	7/6 (木)	7/7 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 600	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 4,900	△ 41,000	+ 2,000	△ 22,000	+ 3,000
資金需給	△ 4,300	△ 40,000	+ 2,000	△ 22,000	+ 2,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還 (3M)	法人税・消費税・保険揚げ		国債発行(10年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,800 CP等買入 △ 100 国債補完供給 + 2,800				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,600	国債買入 + 4,800 短国買入 + 7,500			
(日本)	日銀短観(6月調査) 消費動向調査(6月)	企業の物価見通し(6月調査) マネタリーベース(6月) 日銀の営業毎旬報告(6月30日現在) 基調的なインフレ率を 補足するための指標 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	需給ギャップと潜在成長率		毎月勤労統計(5月) 景気動向指数(5月)
(海外)	米 ISM製造業景況指数(6月) 欧 ユーロ圏製造業PMI (6月、改定値) 英 米セントルイス連銀総裁、講演 (ロンドン)	欧 ユーロ圏生産者物価指数(5月) 米 独立記念日の祝日で 株式・債券市場休場	米 FOMC議事録 (6月13、14日会合分) 欧 ユーロ圏総合PMI (6月、改定値)	米 ADP雇用統計(6月) 米 新規失業保険申請件数 (1日終了週) 米 貿易収支(5月) 米 ISM非製造業景況指数(6月) 欧 ECB議事要旨	米 雇用統計(6月) 独 G20首脳会議 (ハンプルク 8日まで)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

＜インターバンク＞

今週の日銀当座預金残高は360兆4,800億円から始まった。その後は国債・短国買入オペなどを主因に増加し週末には362兆9,500億円となった。

無担保コールON物の加重平均金利は 26日～29日まで△0.053～△0.05%で推移した。また、四半期末越えとなる30日はビットが薄い展開となり同金利は△0.069%に低下した。

ターム物では、期内物で△0.06%～△0.04%のレンジ、四半期末越えIWで△0.05%～+0.02%のレンジで出合が散見された。

30日に発表された4月の全国消費者物価指数は、コアCPI(除く生鮮食品)が前年同月比+0.4%と、15年3月以来、2年2ヵ月ぶりの上昇率となった。来週は国内では3日に日銀短観(6月調査)、4日にマネタリーベース(6月)、海外では7日に米雇用統計、G20首脳会議(8日まで)予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.150 ~ △0.090
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約1兆7,500億円で、四半期末決算で残高調整を行った企業が多く、週間償還額の約2兆6,500億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に下回った。償還超ではあったが、月末日スタートでは幅広い業種からの発行が行われ、週後半に7月スタートでの新規や復活案件が多かった事も重なり、活況なマーケットとなった。6月末残高は、15兆801億円(前年同月：13兆5,683億円)であった。

発行レートは、相変わらず投資家の旺盛な運用ニーズから、多くの銘柄で0.001%割れでの出合いであった。

来週の償還額は、3,200億円程度となっている。5・10日発行や残高調整を行った企業の復活発行により、発行超となる見込み。

4日に、C P等買入オペが3,000億円程度でオファーされる予定。

＜TDB＞

29日に国庫短期証券3M第692回債の入札が行われ、最高落札レートは△0.0942%(前回債△0.0962%)、平均落札レートは△0.982%(同△0.1002%)と前回債から利回りが小幅上昇した。週末のセカンダリー市場では△0.097%の出合が見られ、△0.10%をやや上回る水準での小甘い動きとなった。6M、1Yの出合は見られていない。来週は5日に6M、6日に3Mの入札が予定されている。

＜レポ＞

足許GCは週初△0.05%近辺の出合い。月末初の取引となる30日受渡しは、△0.10%台前半～半ばからスタートしたが、以降はレートが急低下する展開。△0.30%を下回る取引も一部見られた。7月入り後は週初と同レベルの△0.05%台まで戻り、同水準で越週した。

SC取引では5年債、10年債カレント近辺のbidが多く、5y131回債は週を通して△0.40%～△0.45%の出合い。10年347回債は週末にbidが増加、△0.50%台での取引も見られた。他では2年377回債、5年130回債、10年334・335・341・343・345・346・347回債、20年160・161回債、30年55回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。